

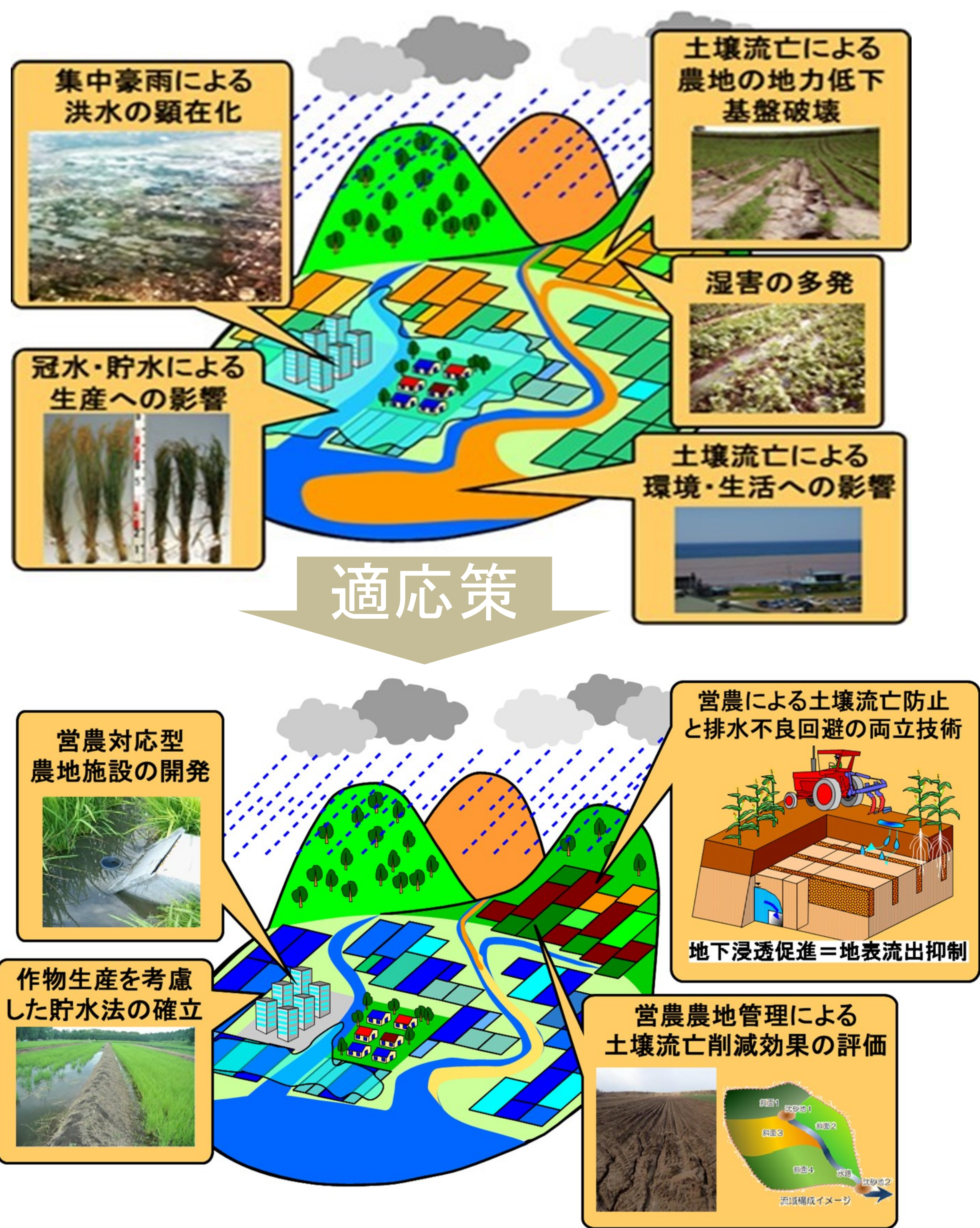
豪雨に対応するための圃場の保水・排水機能活用手法の開発

農研機構 農村工学研究部門／中央農業研究センター／
北海道立総合研究機構／秋田県農業試験場／福岡県農林総合試験場
沖縄県農業研究センター／秋田県立大学／九州大学／
大潟土地改良区トーヨー産業株式会社／株式会社田幸技建コンサルタント



豪雨による水田の冠水被害や土壌流亡・湿害を緩和するため、水田において作物生育ステージを考慮した湛水深管理、畑において保水・排水管理により、農作物への被害を最小化するとともに貯水機能を最大化して被災面積と収量減少を3割軽減する技術の開発を目指しています。

1 豪雨に対応するための圃場管理の取組み

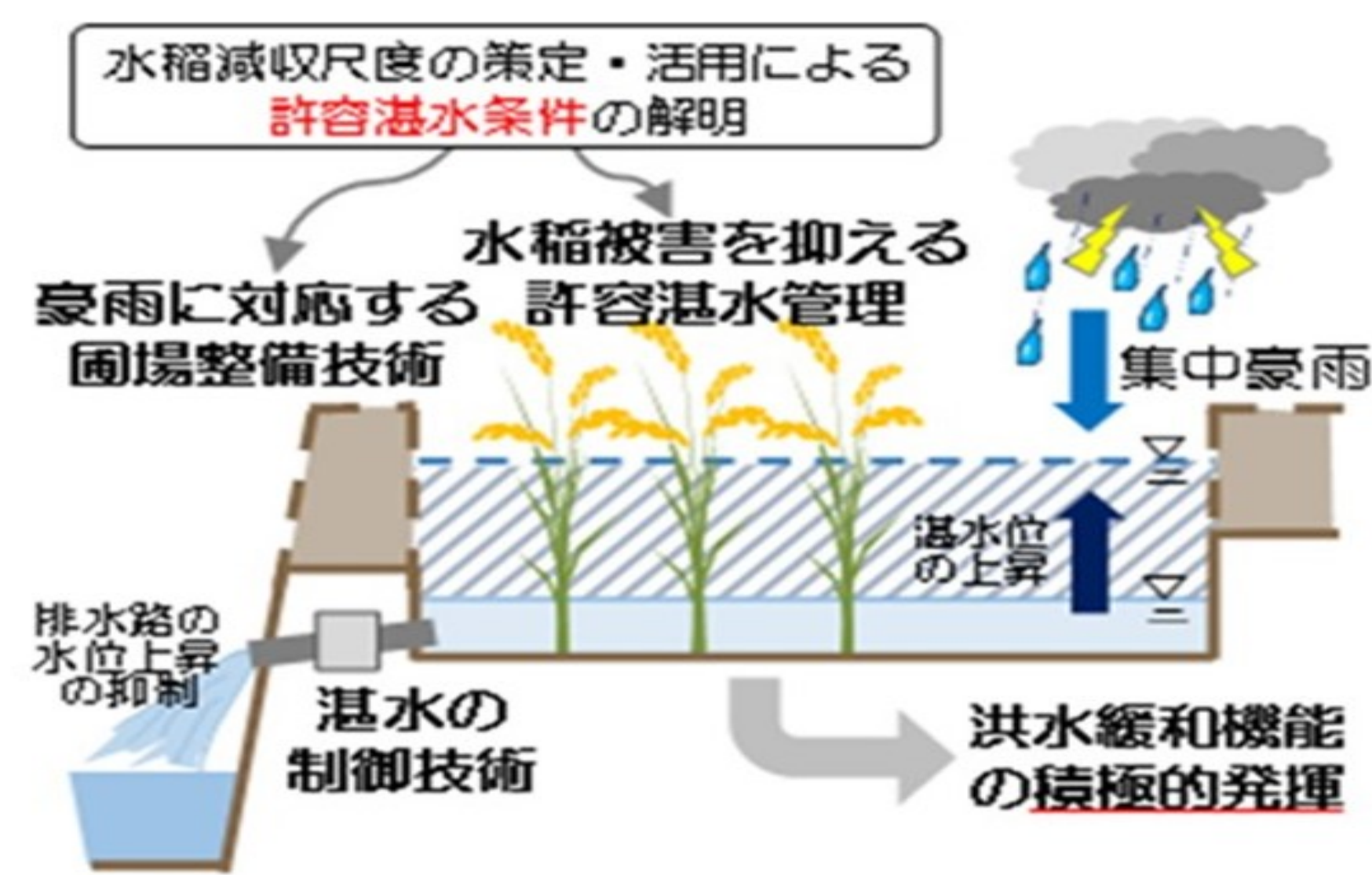


3 営農型土層改良による土壌流亡抑制技術

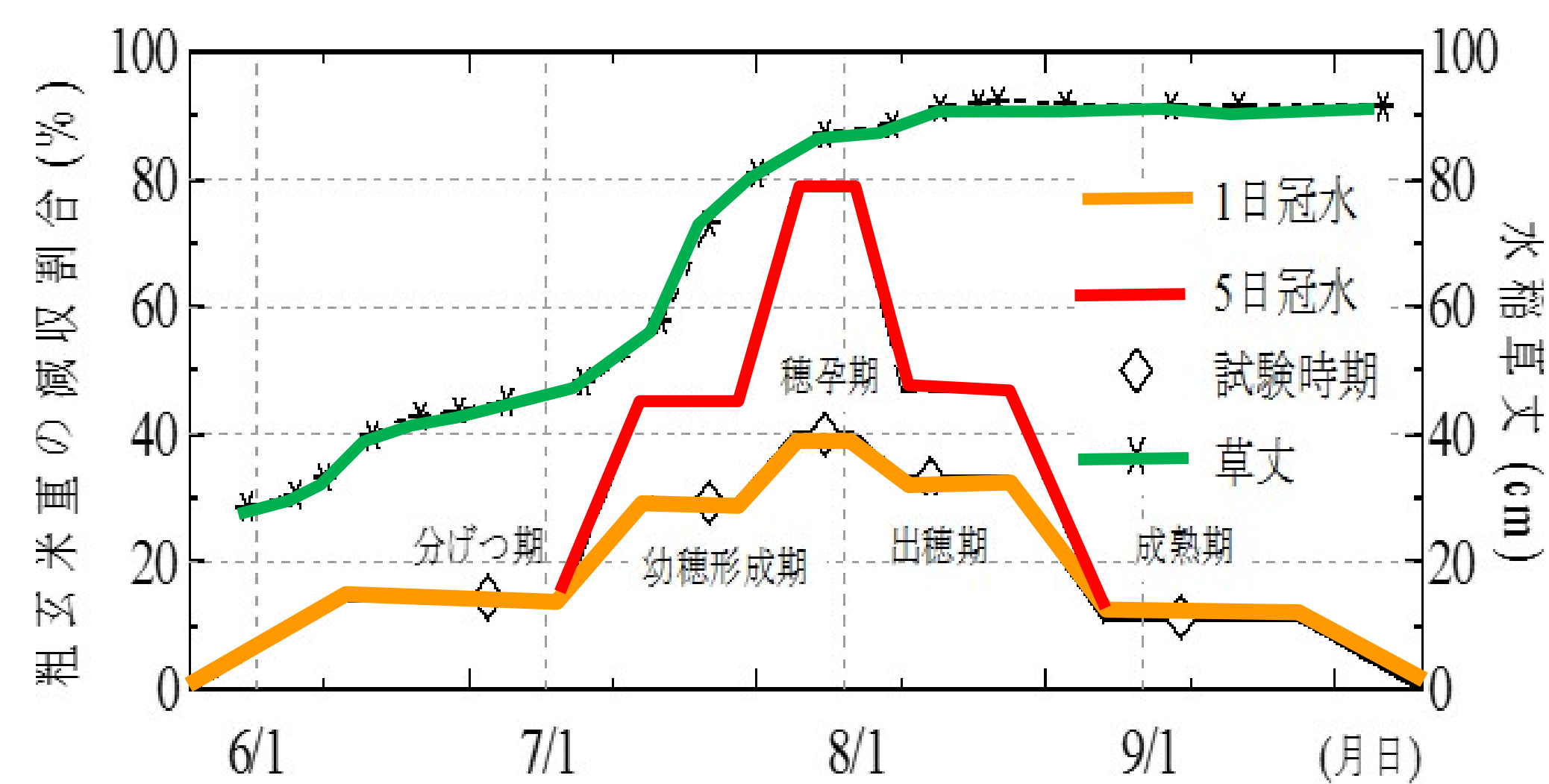


土層改良による土壌流亡抑制効果の圃場レベルの実証

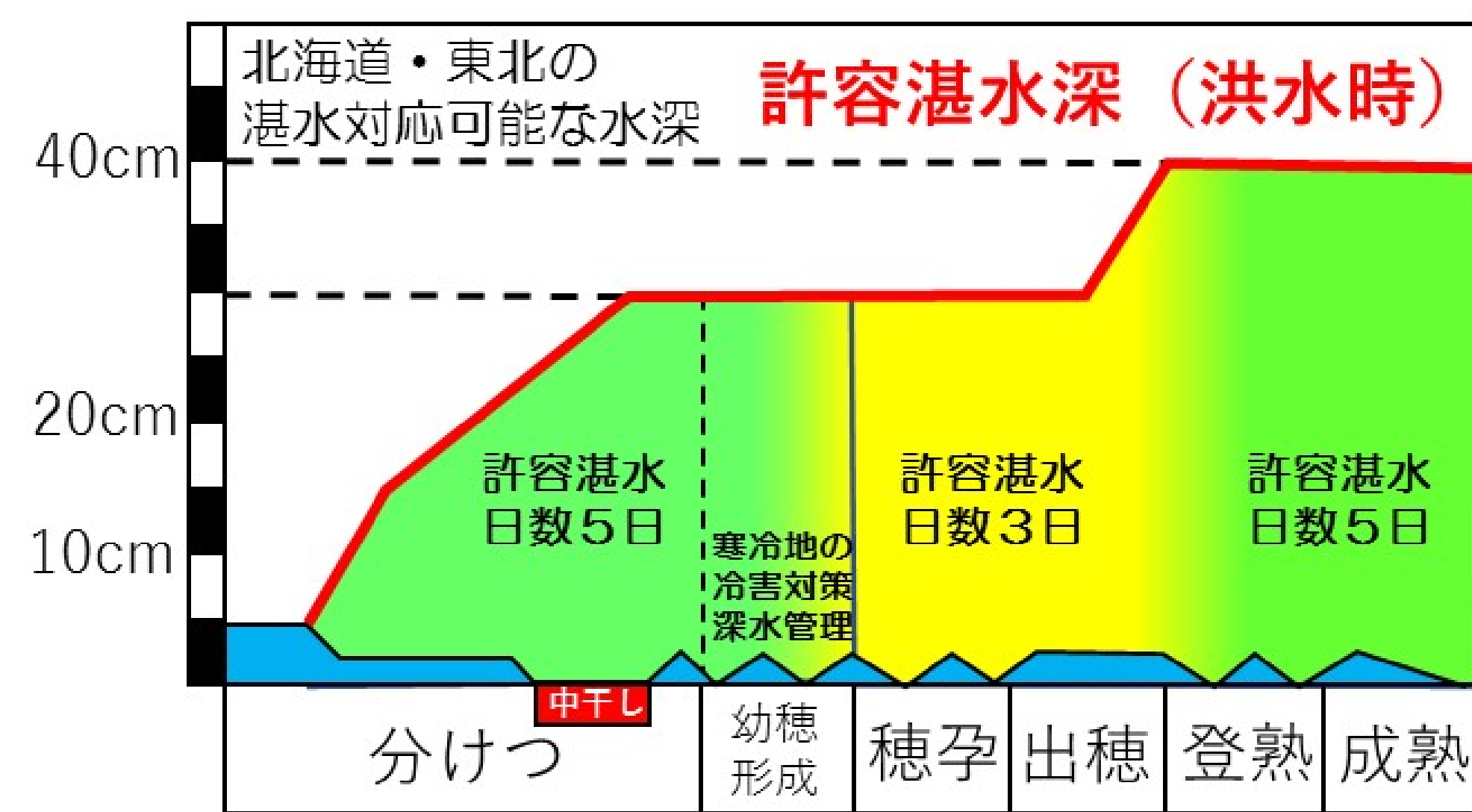
2 水稻の冠水による減収尺度と許容湛水深



許容湛水深を考慮した田んぼダムの概要



水稻の冠水が収量に及ぼす影響(完全冠水条件)



水稻を減収させない許容湛水深管理例

● 普及・社会実装への道筋

- 企業や現地との連携により、開発技術の実用化を見据えた研究の実施
- 地域の協議会等との連携を図った地域密着型研究により、開発技術の活用・定着を推進